

今後のワーキンググループの進め方について（案）

1. 経緯

2021（令和3）度第2回エゾシカ・ヒグマワーキンググループ（以下「WG」という。）において、宇野座長を始め、委員より以下の提起があった。

- ・本 WG では、主にエゾシカとヒグマの課題を扱ってきたが、取り扱う課題が広範であり、議論が尽くせない状況。議論の場を分けるなどの整理が必要。
- ・本 WG は、もともとはエゾシカ対応ということで始まった。その後、エゾシカに関連することとして植生、陸上生態系（ヒグマを含む）と守備範囲が広がった経緯あり。

2. 今後の体制（案）

本 WG を、「エゾシカ WG」と「ヒグマ WG」に分離。

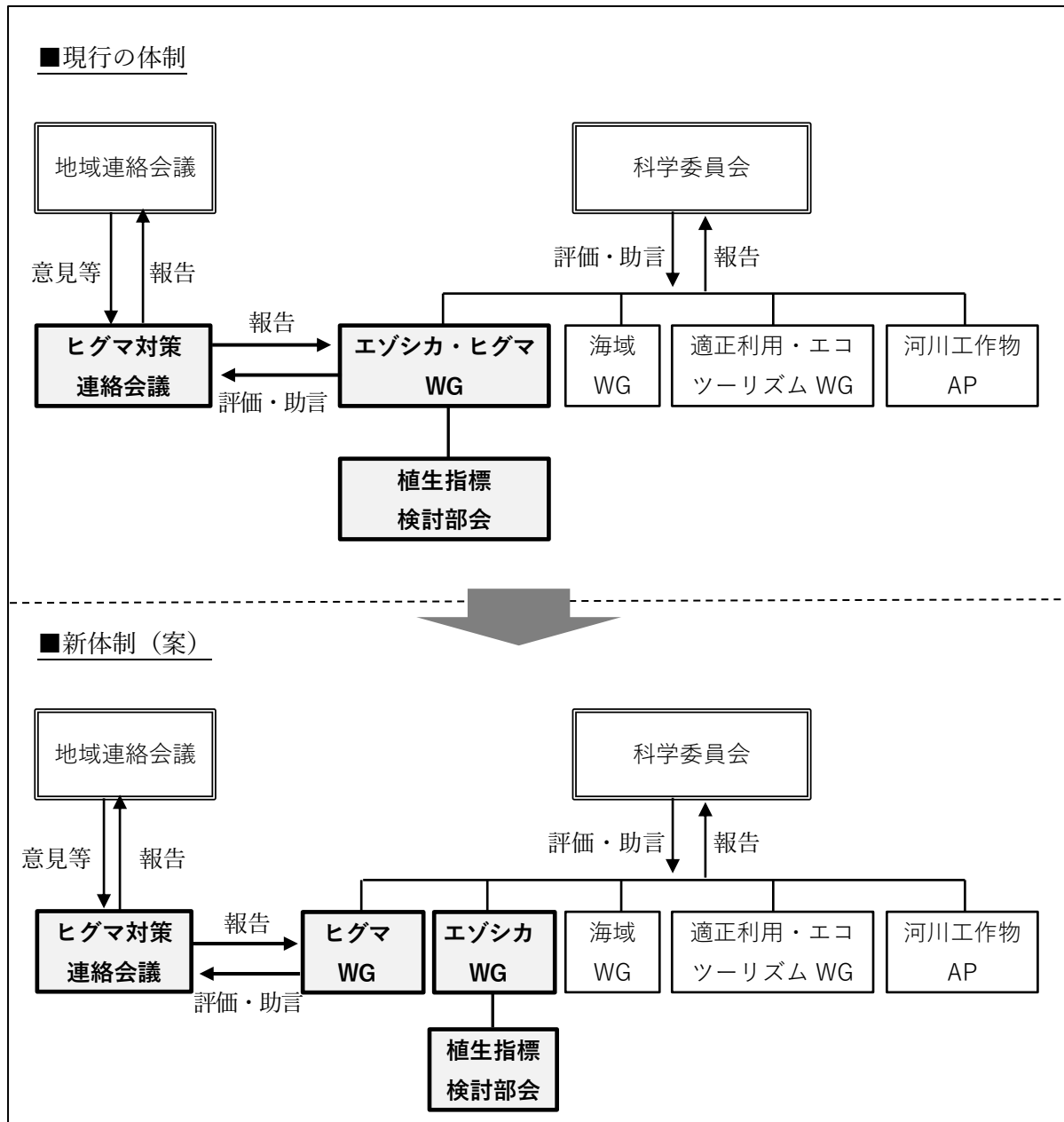
今後の体制（案）

	エゾシカ WG		ヒグマ WG
		植生指標検討部会	
検討課題	主にエゾシカの管理による陸域生態系（特に植生）の保全 （例）エゾシカ管理計画	エゾシカ個体群への人為的介入基準を検討 （例）植生指標の開発	健全なヒグマ個体群の維持及びヒグマと人間活動との軋轢の軽減 （例）ヒグマ管理計画
検討頻度	毎年開催	必要に応じて（管理計画見直し時期に集中検討）	毎年開催
構成	○委員※	○委員（現状同様）	○委員※
	○地元自治体 斜里町、羅臼町	—	○地元自治体 斜里町、羅臼町、標津町
	○事務局 環境省釧路自然環境事務所 林野庁北海道森林管理局 北海道	○事務局 環境省釧路自然環境事務所 林野庁北海道森林管理局	○事務局 環境省釧路自然環境事務所 林野庁北海道森林管理局 北海道

※今後の「エゾシカ WG」及び「ヒグマ WG」の委員構成については、現状の WG 委員の専門性等を踏まえ、科学委員会委員長、エゾシカ・ヒグマ WG 座長、事務局で改めて検討予定

(参考) 科学委員会・地域連絡会議の体制

※地域連絡会議に係る体制図はヒグマ関連のみ抜粋



3. 今後のスケジュール (案)

- ・令和3年度第2回科学委員会において、新体制の確認 (2022年3月7日予定)
- ・令和4年度は、エゾシカWGとヒグマWGについて、各2回程度の開催を想定